

学校教育目標				・ 自律…自ら考え、判断し、行動する ・ 尊重…違いを理解し、他者を尊重する ・ 創造…他者と協働しながら新たな価値を創造する				経営理念				人間尊重と生徒、保護者及び地域との信頼を基盤として、持続可能な社会の創造者・開拓者を育成する。				
評価計画								自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策		
							10月	1月								
生徒が自律的に活動する学校	1	安心・安全な環境の中で、関わり合いやつながりを大切に、豊かな人間性や社会性を育む	・豊かな人間性や社会性の育成	・特別活動における「話し合い活動」の研究及び実践	①「話し合いは楽しい」の肯定的な評価の割合	90%	94.0%	93.2%	103.0%	4	SELを通して、効果的に対話的な学習や生徒同士の関わり合いを取り入れたことが、良い数値につながったと考えられる。	A	話し合いの基盤となる学級づくりができていることがよい。	来年度も引き続きSELなどの活動を通して、話し合い活動を効果的に取り入れていきたい。		
				・生徒会による行事の運営の充実及び活性化	②「学校行事、生徒会行事に満足している」の肯定的評価の割合	85%	90.0%	88.6%	104.0%	4	体育大会や文化祭等で各リーダーを中心に生徒同士が協力する姿を見ることができた。学年を超えて、縦のつながりを強く意識できたことが結果につながったと考える。	A	継続的な取組、さらなる充実を期待する。	引き続き生徒会執行部を中心に各リーダー等を育成しながら学校行事を充実させていく。		
				・キャリア教育の充実	③「職場体験学習が役に立った」の肯定的な評価の割合	90%	97.0%	93.6%	104.0%	4	職場体験学習は生徒にとって多くの学びを得る場となった。職場体験学習後、学校行事の取組が続き、継続的にキャリア教育を実践できていなかったため、達成値が減少したと考えられる。	A	夢の現実と関連付けながら、取組の充実を期待する。	文化祭・修学旅行等の学校行事が多い時期ではあるが、継続して取り組めるよう到来年度の年間計画を見直す必要がある		
			・問題行動・不登校の未然防止や解決に向けた取組の充実	・SSRの充実 生徒指導サポート実践校事業の取組の推進	④月毎に教職員が会えない生徒数	毎月3人以内	平均4.8人	平均5.1人	58.8%	2	10月5名、11月7名、12月5名、4月～12月平均5.1名である。生徒によって難しい場合があるが、保護者とは連携が取れている。	B	家庭や生徒の実態が多様化している中で、地道に取り組んでいるところが評価できる。	今案でない生徒に関しては、精神的なものがあるため、急な改善は難しいが引き続き、保護者との連携を家庭の状況に合わせて進めていく。新たな不登校を増やさないためにも休み始めの備に合った対応をしていく。		
				・SC及び心のサポーターと連携した教育相談の実施	⑤教育相談の実施回数	年4回実施	2回実施	3回実施	75.0%	2	2月にいじめアンケート実施予定、その後教育相談を予定している。これまでの生徒アンケート及び保護者アンケートをもれなく確認、対応した。教育相談期間を設けるのが主に放課後となり、部活動指導が手薄となる。	B	SC等の専門性を有する職員の増員等を検討してほしい。(行政への要望)	SCによる1年生全員面談について、半年以上かかるので、SCの勤務日数を増やしてほしい。		
資質・能力を育む学校	2	生徒一人一人の自己実現に向け、資質・能力を確実に育成する	・授業改善への取組の充実	・質の高い「問い」の設定	⑦教育研究への取組状況	90%	93.0%	92.9%	103%	4	問いを意識して単元計画を立てることができた。	A	授業参観等を実施しながら、より質の向上に取り組んでほしい。	来年度も引き続き、問いを意識した単元計画に組織的に取り組んでいく。		
				・デジタル機器の活用	⑧デジタル機器活用指導力状況調査	80%	70.0%	64.8%	81.0%	2	タブレットを十分に活用して授業することができなかった。今年度研修をしたCanvaの使用を推進していきたい。	B	有効に活用する工夫等を共有し、実態に応じた活用をしてほしい。	GIGAを推進する教員を分享の中で確立をし、教員が組織的にデジタル機器の活用向上に向けた仕組みづくりをしていく。		
				・校外研修の受講	⑨校外研修の受講状況	100%	42.4%	41.7%	41.7%	1	目標値に到達することができなかった。教職員自らがどういう力をつけるために何を研修するかを明確にする必要がある。	C	校外研修への参加が困難な状況があるため、校内研修・オンライン研修等の充実を期待する。	個別の声掛けが必要になってくるが、それ以上に校外研修に参加できる環境の整備(業務改善)が必要だと感じる。		
				・学び方改革への取組	⑩全国学力・学習状況調査等の結果	市平均以上	市平均を上回った	市平均を上回った	95.0%	4	全国平均・広島県・市平均を上回ることができた。今後も学力向上に向けて組織的に取り組んでいく。	A	大規模校にあつて、このような成果は評価できる。引き続き取組を期待する。	授業研究を通して教職員の授業力の向上を図る。ICTを活用した基礎学力の学力の向上を図っていく。		
			・カリキュラム・マネジメントの充実	⑪学習評価に関する校内研修の実施	年3回実施	2回実施	4回実施	133.0%	3	研修回数は目標を上回ることができた。評価の仕方については統一できたが、それぞれの内容項目については検討が必要な教科もあると考える。	A	回数にこだわらず、内容の質を高め、充実した研修を実施してほしい。	研修の中で、評価の項目について、教科部会を開くなど、教員全員で検討を図っていく。			
信頼される学校	3	先見性と一貫性があり、保護者・地域から信頼される	・働き方改革への取組	・市民ポータルサイトへの登録・活用	⑫市民ポータルサイトへの登録状況及び活用状況	100%	99.5%	99.5%	99.5%	3	連絡事項や情報発信に市民ポータルサイトを積極的に活用することで、保護者と連携した教育活動を実施するように努めた。	A	ほぼ達成できているのでよい。保護者へはSNSでの情報提供は有用と思う。	ペーパーレスに取り組み、市民ポータルサイトによる情報共有・情報発信の方法を定着・構築していく。		
				・仕事の仕方改革への取組	⑬「学校は働きがいがある」の肯定的な評価の割合	95%	84.8%	83.3%	87.7%	2	業務改善に努めたが、教師に多忙感があり、生徒と向き合う時間を十分に確保することができなかった。	B	否定的な評価を分析し、改善できることから実現させていくことを期待する	教職員がいきいきと働ける職場を目指し、業務改善に取り組むとともに、学び合う風土を醸成し同僚性を高めていく。		
			・コミュニティスクールの取組	⑭学校評価結果の分析・対策	年3回実施	1回実施	3回実施	100.0%	3	運営協議会を計画的に開催することができた。どのような子どもを育成していくかについて、引き続き議論を重ねる必要がある。	B	引き続き、情報を発信し、保護者・地域のそれぞれの役割を果たしていけるしくみが必要である。	協議の質を高めていくことが必要であり、目指す生徒の姿を共有しながら、地域を支える人材を育てていく。			

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示す

■自己評価
4…目標を上回って達成
2…目標をやや下回って達成

3…目標どおりに達成
1…目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)
A…とても適切である
C…あまり適切でない

B…概ね適切である
D…全く適切でない